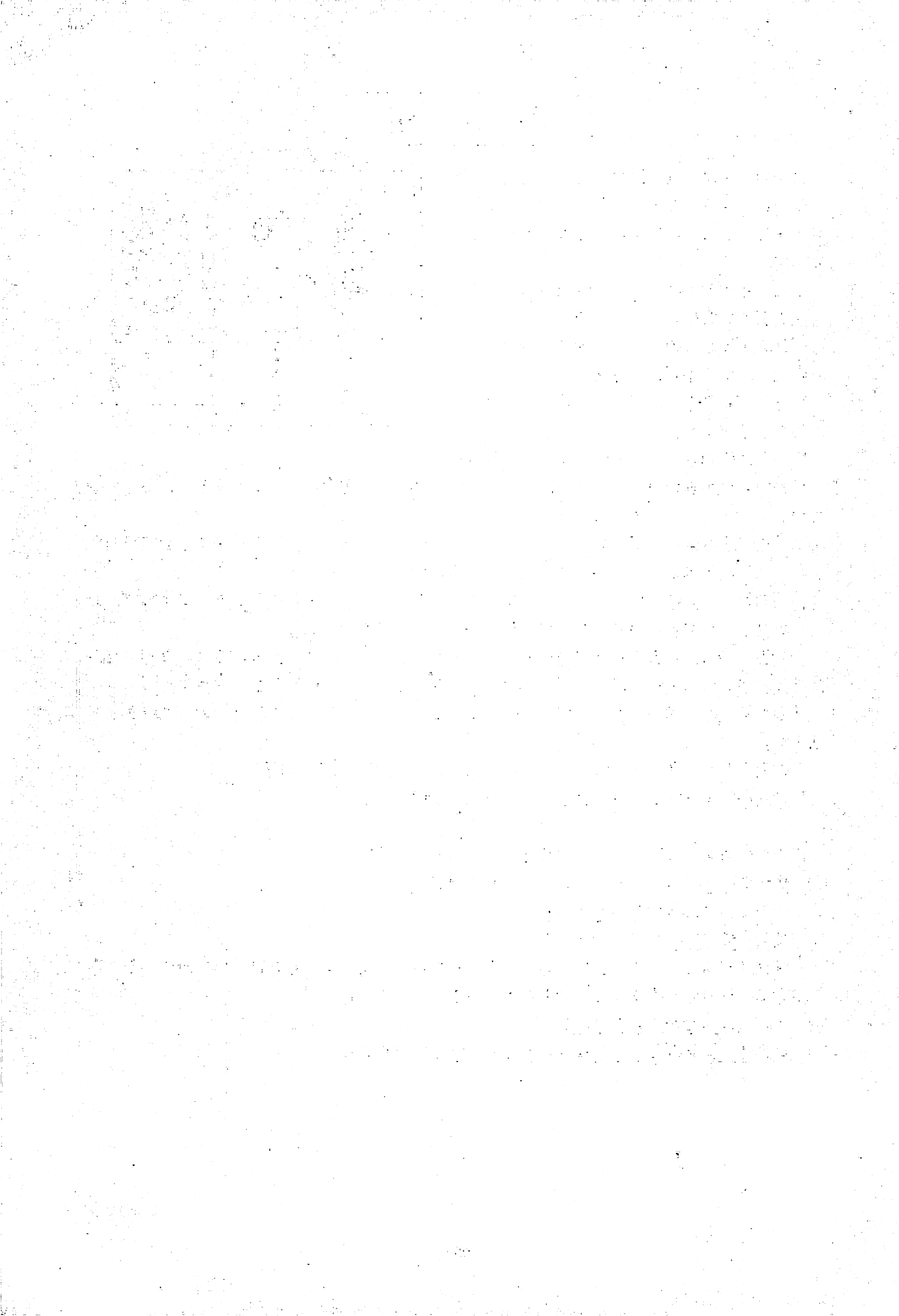

鹿児島之路傍300種図鑑

離島編

貝類



貝 類

1 貝類の50種は、南西諸島に普通で、貝殻の特徴がはっきりしていて、区別のつけやすいものを選びました。内訳は、右表のようになります。

また、それ以外に「似た貝」として167種を取り上げました。

2 「県本土編」にのせてあるものは重複を避けるため、できるだけ除きました。

3 取り上げる順序は、できるだけ一般の図鑑に出ている順にしました。

4 取り上げる内容は、「場所」「解説」「似た貝」の3項目に統一しました。

5 「場所」は生きた貝が多く見られるところで、ほとんど潮間帯の「潮だまり」になっています。

(1) 「潮だまり」は、干潮のときも海水が残っているところで、タイドプールとも呼ばれていて、貝類のほか多くの動植物の絶好のすみかです。


(2) 「潮だまり」の石の下には、そこに住む動物の卵が付いていることがありますので、貝を採集したらもとどおりにしておくことが自然保護にもつながります。

6 「解説」では、貝殻の特徴について簡単に説明しました。巻貝を見分ける大切な部分は殻口です。殻口の形・色、殻口内唇・外唇にある突起などをよく観察しましょう。

7 「似た貝」は、50種に取り上げた貝の仲間の中から選びました。中には数の少ない貝もあります。

8 貝の大きさは、「実物の大きさの $\frac{1}{2}$ 倍」を「 $\times\frac{1}{2}$ 」と示してあります。

9 貝の良い標本を作るには、生きた貝を採集することです。

分類 グループ				
	場所	巻貝	二枚貝	ツノ貝
海	32	13	1	1
淡水	1	0	0	0
陸	2	0	0	0
計	35(種)	13	1	1

貝の良い標本とは、次のような条件を満たしている標本です。

(1) 形が壊れずにきちんとしていて、色や模様があること

(2) 新鮮であり、自然のつやがあること

(3) 成貝（親になった貝）であること

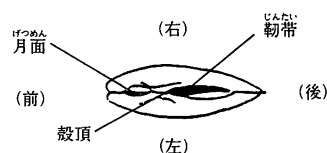
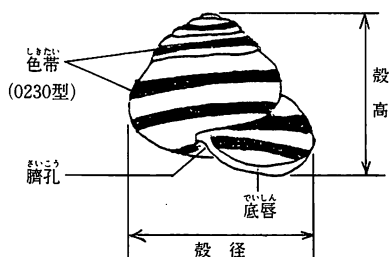
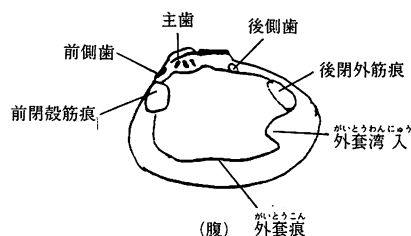
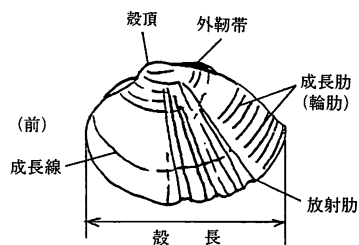
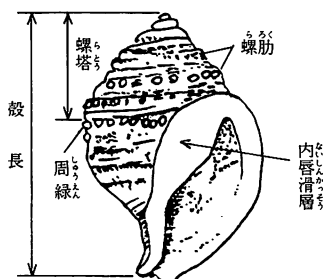
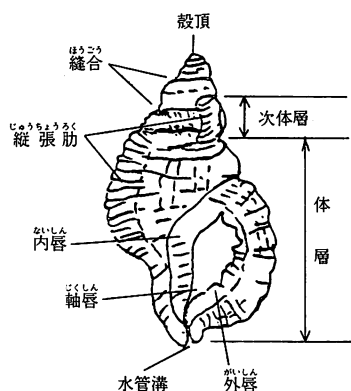
成貝になると、殻口（特に外唇部）が厚くなる。幼貝（子どもの貝）では殻口が薄く不完全で、貝の色や模様などの特徴が出ていないことが多い。

(4) 巻貝にはふたがついていること

(5) 採集地・採集年月日・採集者名を必ず記録しておくこと

貝殻各部の名称と用語の解説

貝殻各部の名称



用語の解説 (アイウエオ順)

- 外 套** (がいとう) **膜** (まく) : 貝の体 (軟体) をおおう筋肉質の膜で、タカラガイでは、外套膜が殻全体をおおっている。外套膜から分泌される物質で貝殻が作られる。
- 殻 頂** (かくてい) : 殻が最初に作られた部分
- 滑 層** (かっそう) : 貝殻の表面がすべすべしたところ
- 肩 角** (けんかく) : 各螺層の上部にある角ばった (肩状の) 部分
- 臍 孔** (さいこう) : 巻貝が巻きながら成長していくときできる穴で、軸唇のところにある。
- 軸 唇** (じくしん) : 内唇から水管に続く部分
- 次 体 層** (たいそう) : 体層の一段上の層
- 縦 張 肋** (じゅうちやく) : 殻の軸 (殻軸) に平行に隆起し、普通の縦肋に比べて著しく太い。そこで成長が一度止まっている。
- 縦 肋** (じゅうりやく) : 殻の軸 (殻軸) に平行で規則的にできた隆起

じん 靴	たい 帯	二枚貝の殻頂の後部（後背縁）にあって両殻をつなぎ合せている部分で、外側から見えるものを外靴帯という。
すい 水	かん 管	溝：殻口の下端（前端）に伸びた管状の部分
成 長	線	成長につれてできた細い線で、輪脈ともいう。
成 長	脈	成長線にそって隆起している部分
成 長	筋	成長脈の中で特に太くなった線で、輪状筋あるいは輪筋ともいう。
足	糸	二枚貝が殻を固着させるために出した糸の束
体	層	巻貝の最終螺層のことで、体（軟体）の大部分がおさまっている部分
体 層	周 縁	体層が最も張り出している部分で、単に周縁ともいう。
頂 口	ツノガイ類の殻頂にある穴で、肛口ともいう。	
内 唇	層	殻口の内側の部分
内 唇	滑 層	内唇から広がるすべすべした部分
閉 殻	筋	痕：左右両殻の開閉のために、前後にある筋肉（貝柱）のついていた部分
縫 合	層	螺層と螺層の合わせ目の部分
放 射	彩	殻頂から周縁部に出る放射状の色帯
放 射	筋	殻頂から周縁部に出る放射状の筋
螺 層	糸	巻貝の成長の方向にある平行な最も細い隆起
螺 層	層	巻貝の軸（殻軸）の回りにある管状の部分（縫合と縫合の間の部分）で、下の方から体層、次体層、中間層、初生層などがある。
螺 塔	層	殻頂から体層周縁までの部分
螺 筋	層	巻貝の成長の方向にある太い隆起

海産巻貝類

巻貝には、次の(1)~(6)のようなものが上げられる。

- (1) 体の背側に巻いた殻を持っている。
(イボアナゴ、アマオブネガイ、ニシキウズガイなど)
- (2) 体の背側にかさ形の殻を持っている。
(リュウキュウノアシガイ、コウダカカラマツガイ、ヨメガカサガイなど)
- (3) 二枚の殻を持っている。(ユリヤガイ、タミノミドリガイなど)
- (4) 浮遊生活、又はプランクトン生活をする。(アサガオガイ、カメガイなど)
- (5) 殻は退化して小さい。(アメフラシ、タツナミガイ、ヒトエガイなど)
- (6) 殻を持たない。(イソアワモチ、ミカドウミウシなど)

巻貝は、殻の背側に巻いた殻、又はかさ形の殻を持ち、足の裏は広くて大きい。生息場所も潮上帯（しぶき帯）から深海までのきわめて広い範囲である。潮上帯は、荒天のとき波しぶきがかかることがあっても定期的に海水に浸ることはなく、アラレタマキビガイ、テリタマキビガイ、イボタマキビガイなどが生息している。私たちの目に触れるほとんどの貝は、潮間帯（最低潮線と最高潮線の間）に生息している。特に、潮間帯の潮だまりにはえさになる海藻類も多く、貝類だけでなく外の動物たちの絶好のすみかである。

貝を探しに出かけよう



鹿児島県には約4,000種の貝がいるといわれ、貝類の宝庫です。海に限らず、河川や湖沼から陸地まで、貝はどこでも採集できます。また、冬は表面に出て活動しない貝（陸産貝など）もありますが、季節による違いはあまりないので、年間を通して採集できます。

生きた貝を海に求めて……岩場では波打ちぎわから干潮時の潮だまり、岩の上面、下面、すき間など、少しずつ異なった環境を探すのがよく、砂浜では、干潮時に貝の潜ったあとなどを手がかりに探すのがコツです。店頭で売られている貝も意外に種類が多い。

貝殻ひろい……砂浜の波打ちぎわに落ちている死殻（打上げ貝）ひろいも楽しいものです。干潮でなくても手軽に多くの種類が集められますが、こわれた貝殻が多いのが欠点です。

淡水産の貝たち……種類はあまり多くありませんが、川や池、田んぼなど水のあるところで見つけられます。山間の溪流から農村を経て都市の溝にまで、貝は生活しています。

陸産の貝たち……カタツムリなどがそれで、雨上がりなどは樹幹にはい出てきますが、いつもは落葉の下、石の下、樹幹の割れ目、倒木、葉の裏などについています。入念に探すと、20種ぐらいはどこでも採集できます。大形で特徴のはっきりしたものから名前を覚えましょう。

楽しい標本の作り方

1. 次の条件を満たす良い標本を選ぶ。
 - (1) 形がきちんとしていて、色や模様があり、自然のつやがあること。
 - (2) 親貝（成貝）であること。巻貝では、口の部分が完全にできて、厚くなっていたら成貝。子供の貝（幼貝）では、形・色・模様などの特徴がでていないことが多い。
 - (3) 巻貝には、ふたをつけること。ふたの裏表・上下が反対にならないように注意。
 - (4) 二枚貝は、二枚の殻が左右そろっていること。
2. 生貝は煮て肉を抜く。巻貝で肉が残ったものは腐らしたあと水を入れて強くふり出すと、抜ける。ゴムホースを細くして、水を口から勢いよく注ぎこむと確実に抜ける。
3. 打上げ貝はこわれていないものを選び、ピンセットや歯ぶらしを使って水洗いをする。
4. 二枚貝は、両方の殻を合わせて糸で結ぶ。
5. 巻貝のふたのあるものは、口の中に脱脂綿などを詰め、ふたをのりづけする。
6. 手ごろの大きさの標本箱を準備し、わくを作った中に綿をしき、似ている貝を近くにならべ、のりづけする。ガラスのふたをつけたほうがよい。
7. ラベルに貝の名前（和名）・採集地・採集年月日を書く。



236 イボアナゴ (ミミガイ科) (紀伊半島以南)



場所 潮間帯，潮だまり（タイドプール）の石の下にいて，干潮のときは移動しない。

解説 殻の表面にはいぼ（結節）がまばらにあり，ごつごつした感じである。穴は5～6個あり，少し盛り上がる。肉はしまっていておいしい。海藻を食べている。

似た貝 下の写真のように，それぞれ穴の数と盛り上がり方に特徴がある。コビトアワビは，アワビの中で最も小さい。

穴は4～5個
少し盛り上がる



× $\frac{4}{5}$
ヒライアナゴ (紀伊半島以南) (多い)

穴は2～4個
少し盛り上がる



× $\frac{7}{5}$
コビトアワビ (四国以南) (少ない)

穴は7～8個
盛り上がらない



× $\frac{4}{5}$
トコブシ (北海道南部以南) (多い)

穴は6～7個
盛り上がらない
強い放射肋



× $\frac{3}{5}$
フクトコブシ (四国以南) (多い)

237 リュウキュウウノアシガイ (ユキノカサガイ科) (奄美大島以南)



× $\frac{4}{5}$

場所 潮間帯に生息し，干潮のとき，満潮線付近についている。

解説 7本の強い肋があり，ウノアシガイに比べて先端はとがらない。肋間には，はっきりした模様がある。干潮のときは移動しない。

カラマツガイ科の特徴は，肺呼吸をすることである。(有肺類)

似た貝

先強はとがる



×1
ウノアシガイ (北海道南部以南)

肋は不規則



× $\frac{6}{5}$
クロカラマツガイ (カラマツガイ科) (種子島以南)

強い肋は6～7本



× $\frac{6}{5}$
キクノハナガイ (カラマツガイ科) (北海道南部以南)

肋は多数で，縁に突き出る



×1
ヒラカラマツガイ (カラマツガイ科) (種子島以南)

音が高い

白色の強い
放射肋



× $\frac{7}{5}$

× $\frac{7}{5}$
コウダカカラマツガイ (カラマツガイ科) (四国以南)

強い放射肋が多数



× $\frac{1}{2}$
ツタノハガイ (ツタノハガイ科) (房総半島以南)

238 ニシキウズガイ (ニシキウズガイ科) (紀伊半島以南)



ニシキウズガイ科
ふたは、すべて角質で
薄い。

×1/2

場所 潮間帯，潮だまり（タイドプール）の石の下
解説 円錐形で，側面がやや膨れる。殻表には，細
かいつぶ（顆粒）の列がある。

似た貝 アナアキウズガイでは，いぼ（結節）状と
なる。ムラサキウズガイは，つぶがやや荒く，螺肋と
殻表のまだらも荒い。



アナアキウズガイ (紀伊半島以南)

×1/2

ムラサキウズガイ (紀伊半島以南)

×1/2

239 イシダタミガイ (ニシキウズガイ科) (北海道南部以南)



×2

場所
潮間帯の満潮線
付近に普通
解説
殻表に石だたみ
のような彫刻が
あり，全国的に
分布し，食用と
なる。

似た貝



オキナワイシダタミ (奄美大島以南)

×7/5

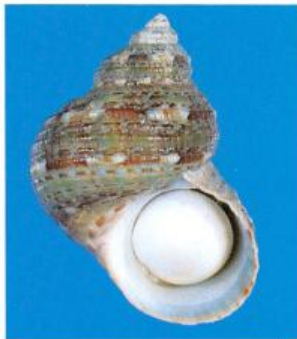


ハナダタミ (奄美大島以南)

×2

似た貝 ハナダタミも少ないが，オキナワイシダタミは極めて少ない。

240 コシダカサザエ (リュウテンサザエ科) (房総半島以南)



×1/2

場所 潮間帯の潮だまり（タイ
ドプール）の石の下
解説 殻の大きさは3 cmぐら
いで，サザエの幼貝に似ている。ふ
たは，石灰質で円形である。肋
は，とげ状やうろこ状には立たな
い。幼貝の殻の色は，黄・紅・緑
などがあり，イロサザエの別名が
ある。食用となる。

似た貝 チョウセンサザエには，肋上にとげを持つ個体も
あり，肉はおいしい。



×2

チョウセンサザエ (トカラ列島半島以南)

241 オオウラウスガイ (リュウテン科) (紀伊半島以南)



×1



×1

場所 潮間帯の潮だまり (タイドプール) の石の下

解説 殻表には、荒い顆粒の列があり、周縁 (下のふち) ではとげが2列になっている。底面の螺肋は、うろこのようなものである。

似た貝 ウラウスガイのとげは1列であり、ウズイチモンジガイのふたは革質である。



ふたは石灰質 (リュウテン科の特徴)

鱗孔がある



×5/4



×1

ウラウスガイ (房総半島以南)



×8/5



×6/5

ウズイチモンジガイ (ニシキウスガイ科) (房総半島以南)

242 アマオブネガイ (アマオブネガイ科) (房総半島以南)



×1

場所 潮間帯の岩の上

解説 殻口の滑層には、多くの顆粒があり、ふたは石灰質で半円形、殻表には白地にむら雲模様がある。

似た貝



ニシキアマオブネガイ (奄美大島以南) (多い) ×4/5

螺肋は角ばっている



マキミノアマオブネガイ (奄美大島以南) ×1
(極めて少ない)

殻が厚く、螺肋は太い



オオマルアマオブネガイ (種子島以南) (やや少ない) ×6/5

殻はやや細い



マルアマオブネガイ (奄美大島以南) (多い) ×2

243 コシダカアマガイ (アマオブネガイ科) (種子島以南)



×2

場所 潮上帯 (最高潮線の上) の岩
解説 殻表には、黒地に黄白色のまだら模様がある。螺塔はイシダタミアマオブネガイに比べて低い。

似た貝 キアマガイとフトスジアマガイの肋は太く、キアマガイの殻口の内側は黄色で、フトスジアマガイとキバアマガイの殻口にはきば状突起がある。



キアマガイ (奄美大島以南) × $\frac{4}{3}$



イシダタミアマオブネガイ (九州南部以南) × $\frac{4}{5}$



キバアマガイ (四国以南) ×1



フトスジアマガイ (種子島以南) ×1

244 ウズラタマキビガイ (タマキビガイ科) (紀伊半島以南)



× $\frac{5}{2}$

場所 潮間帯, 満潮線付近の岩
解説 殻表にウズラの羽根のような模様があるので、この名がある。体層周縁は角張る。

似た貝



× $\frac{3}{2}$

ホソスジウズラタマキビガイ (紀伊半島以南)



× $\frac{3}{2}$

コウダカタマキビガイ (紀伊半島以南)



× $\frac{3}{2}$

テリタマキビガイ (四国以南)

245 リュウキュウヘビガイ (ムカデガイ科) (四国以南)



×1

場所 潮間帯, 岩礁に固着している。
解説 殻はおしつぶされ、上面は三角状である。ふたはない。

似た貝



オオヘビガイ (北海道南部以南) × $\frac{3}{4}$



フタモチヘビガイ (紀伊半島以南) × $\frac{1}{3}$

246 クワノミカニモリガイ (オニツノガイ科) (種子島以南)



×2

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻はずんぐりした紡錘形で, 螺肋の上に黒点がある。殻口は, 薄紫色または白色である。

似た貝



角張る

×1

オオオニツノガイ (四国以南)



角状突起

×4/5

メオニツノガイ (四国以南)



螺肋上に
結節と黒点

×3/5

トウガタカニモリガイ (房総半島以南)



×1/3

オニツノガイ (紀伊半島以南)

247 ムカシタモトガイ (スイショウガイ科) (房総半島以南)



×1

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻口外唇の内面には細かいきざみ目があり, 殻口内は薄い紅色をしている。この科の貝は足の発達が悪く, ふたを使って地面をけるようにして動くので, 跳びはねるように見え, 方言名で「トゥピンニャ」と呼んでいる。肉は香ばしくおいしい。

似た貝 ヤサガタムカシタモトガイ, オハグロガイ, ヒダトリガイの殻口は黒く, マガキガイの内唇も黒い。



ヤサガタムカシタモトガイ (房総半島以南) ×3/2



オハグロガイ (紀伊半島以南) ×3/2



ヒダトリガイ (紀伊半島以南) ×1



体層は少し
ねじれる

×2/3

ネジマガキガイ (種子島以南)



マガキガイ (房総半島以南) ×1/2

マガキガイ (籬貝)

写真の左は, 殻表がピロウド状の黄褐色の殻皮で被われたもので, 右は, アルカリ溶液につけて殻皮を取り除いたもので, むしろのようなマガキ模様がある。目は, 外唇下方の湾入から出す。

248 ベニソデガイ (スイショウガイ科) (四国以南)



× $\frac{2}{3}$

場所 潮間帯から10mぐらいの砂底
解説 殻口内は紅色で、外唇の上の方は角状に伸びる。殻表は比較的滑らかで、ウラスジマイノソデガイによく似ている。

似た貝 ウラスジマイノソデの殻口内にはすじがあり、マイノソデの殻表は螺肋がはっきりしている。



ウラスジマイノソデガイ (四国以南) × $\frac{2}{5}$

マイノソデガイ (四国以南) × $\frac{1}{2}$

249 スイジガイ (スイジガイ科) (紀伊半島以南)

場所 潮間帯，潮だまり (タイドプール)

解説 殻口内は紅色で、細かいしわがある。6本の突起の出かたが「水」の字に似ているので、「水字貝」の名が付いた。幼貝には、突起はない。



幼貝 × $\frac{4}{5}$



× $\frac{1}{2}$



× $\frac{1}{3}$



成貝 × $\frac{1}{5}$

似た貝

クモガイ (紀伊半島以南)



幼貝 × $\frac{2}{3}$



× $\frac{1}{2}$



× $\frac{1}{3}$



成貝 × $\frac{1}{5}$



サソリガイ (紀伊半島以南)

7本
赤い

突起
殻口

7本
黒くてすじが顕著



フシデサソリ (紀伊半島以南)

クモ類 (節足動物) のサソリに形が似ているのでこの名がある。

250 ホシダカラガイ (タカラガイ科) (四国以南)



x1/2

場所 潮間帯から水深20mぐらいまでに生息

解説 殻長12cmにも達し、背面は白地に黒円点を散らし、外套膜の合う所に縦の線がある。

似た貝



x6/5

ヒメホシダカラガイ (種子島以南)



x1

ホシキヌメガイ (房総半島以南)

251 ハナマルユキダカラガイ (タカラガイ科) (房総半島以南)



x1/5

場所 潮間帯, サンゴ礁の沖合の岩のくぼみに普通
解説 背面は褐色の地に小白点が密にある。



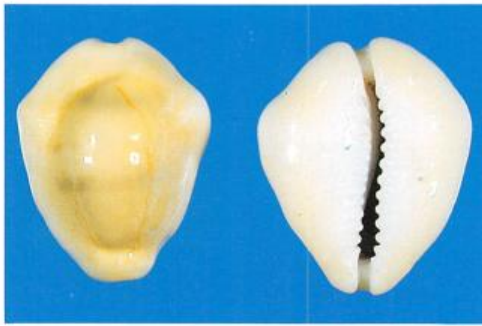
x2/3

ヒメヤクシマダカラガイ (奄美大島以南)



ハチジョウダカラガイ (四国以南) x2/5

252 キイロダカラガイ (タカラガイ科) (房総半島以南)



× $\frac{3}{4}$

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻の形が剣道の面に似ているので、メンガタダカラガイともいう。殻後方の両側は、こぶ状に膨れ、背面は黄色をおびる。昔、貨幣として用いられたのはこの貝である。

似た貝 ハナピラダカラガイは、背面に橙色の輪がある。



ハナピラダカラガイ (房総半島以南) ×1

253 ヤクシマダカラガイ (タカラガイ科) (房総半島以南)



× $\frac{1}{2}$

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 側面の滑層がよく発達し、張り出す。幼貝は細長く、螺塔が明らかである。

似た貝 ホソヤクシマダカラガイは、背面中央に縦の太い線がある。

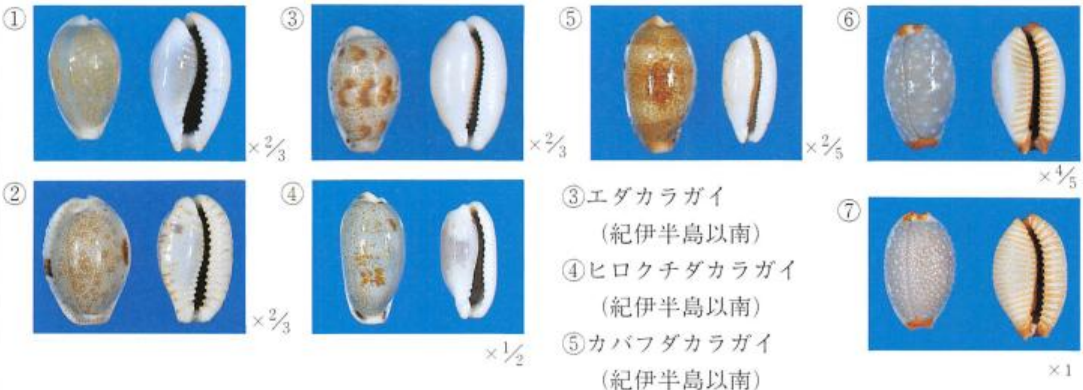


幼貝 × $\frac{1}{2}$



ホソヤクシマダカラガイ (種子島以南) × $\frac{2}{3}$

相違点を見つけよう (①と②, ③と④⑤, ⑥と⑦)



①ハツユキダカラガイ (房総半島以南)

②コモンダカラガイ (房総半島以南)

③エダカラガイ (紀伊半島以南)

④ヒロクチダカラガイ (紀伊半島以南)

⑤カバフダカラガイ (紀伊半島以南)

⑥シボリダカラガイ (房総半島以南)

⑦サメダカラガイ (房総半島以南)

タカラガイ科の日本産は75種で、ふたは持たず、生きた貝の殻は、外套膜で被われているので、殻表は光沢(つや)があって美しい。

254 シオボラ (フジツガイ科) (紀伊半島以南)



×1

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 内唇滑層は白く, 体層の上方まで発達している。殻口内は赤く, 水管はやや長い。肉は香ばしくておいしい。

似た貝 シマイボボラでは, 内唇滑層は板状に広がり, 体層は丸くふくれる。



シマイボボラ (四国以南) × $\frac{3}{5}$

255 サツマボラ (フジツガイ科) (紀伊半島以南)



× $\frac{2}{3}$

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻口はオレンジ色で, 内側のひだは白い。外唇には, 対になった歯のような突起がある。

似た貝 ミツカドボラの縦張筋は強く, こぶ状であり, シノマキガイは毛状の殻皮を被っている。



シノマキガイ (紀伊半島以南) × $\frac{4}{5}$



ミツカドボラ (紀伊半島以南) × $\frac{2}{3}$



ジュセイラ (紀伊半島以南) ×1



ショウジョウラ (種子島以南) × $\frac{3}{2}$

フジツガイ科の日本産は約60種で, 強い縦張筋をもち, 水管溝は明らかである。ホラガイもフジツガイ科に属し, サングの害敵オニヒトデを食べることで有名である。

256 オキニシ (オキニシ科) (房総半島以南)



×1/2

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻の両側に非常に太い縦張筋があり, その上に後溝のあとが残っている。殻口は黄色, 殻は厚みがあり重い。肉はおいしい。

似た貝 イワカワウネボラには, 螺肋にいぼ列と顆粒列がある。



×1

イワカワウネボラ (紀伊半島以南)

257 ツノレイシガイ (アクキガイ科) (紀伊半島以南)

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻表には, 太い先のとがった突起がある。殻口内は白色で褐色の糸のような模様がある。

似た貝



×1



突起が長い



突起が短い



突起は極めて短い

ツノテツレイシガイ (紀伊半島以南) ×1 テツレイシガイ (紀伊半島以南) ×1 コイボテツレイシガイ (四国以南) ×1



低い結節 (こぶ)

テツボラ (紀伊半島以南) ×1/2

多くの螺糸がある



先のとがった結節

×2/3

キナレイシガイ (紀伊半島以南)



結節は低い

×1/5

シロクチキナレイシガイ (紀伊半島以南)



ホソズジテツボラ (四国以南) ×1/2

アクキガイ (悪鬼貝) 科の日本産は約200種あり, 極めて数の多いグループである。岩のある潮間帯では, 個体数も多く簡単に採集できる。すべて食用にできる。

258 キイロイガレイシガイ (アクキガイ科) (紀伊半島以南)



×1

成長のようす

場所 潮間帯, 岩礁

解説 殻は上から押しつぶされた感じで、殻表は海藻で覆われ、周囲の岩肌によく似ている。殻口は黄色で、外唇の内側には歯のような突起があり、外側には長短5本の突起がある。成長するにつれて外唇は厚くなり、突起も発達する。

似た貝 殻口の色がそれぞれ鮮やかで美しい。



×1

×1

似た貝



2つのかたまりになった突起
(外唇の内側)

シロイガレイシガイ (紀伊半島以南)

×1



キマダライガレイシガイ (紀伊半島以南)

×1



ムラサキイガレイシガイ (紀伊半島以南)

× $\frac{2}{3}$



アカイイガレイシガイ (紀伊半島以南) ×1

岩礁にすむレイシガイダマシの仲間 (岩礁：水中にかくれた岩)



① ×0.9



② ×1.3



③ ×0.7



④ ×0.9

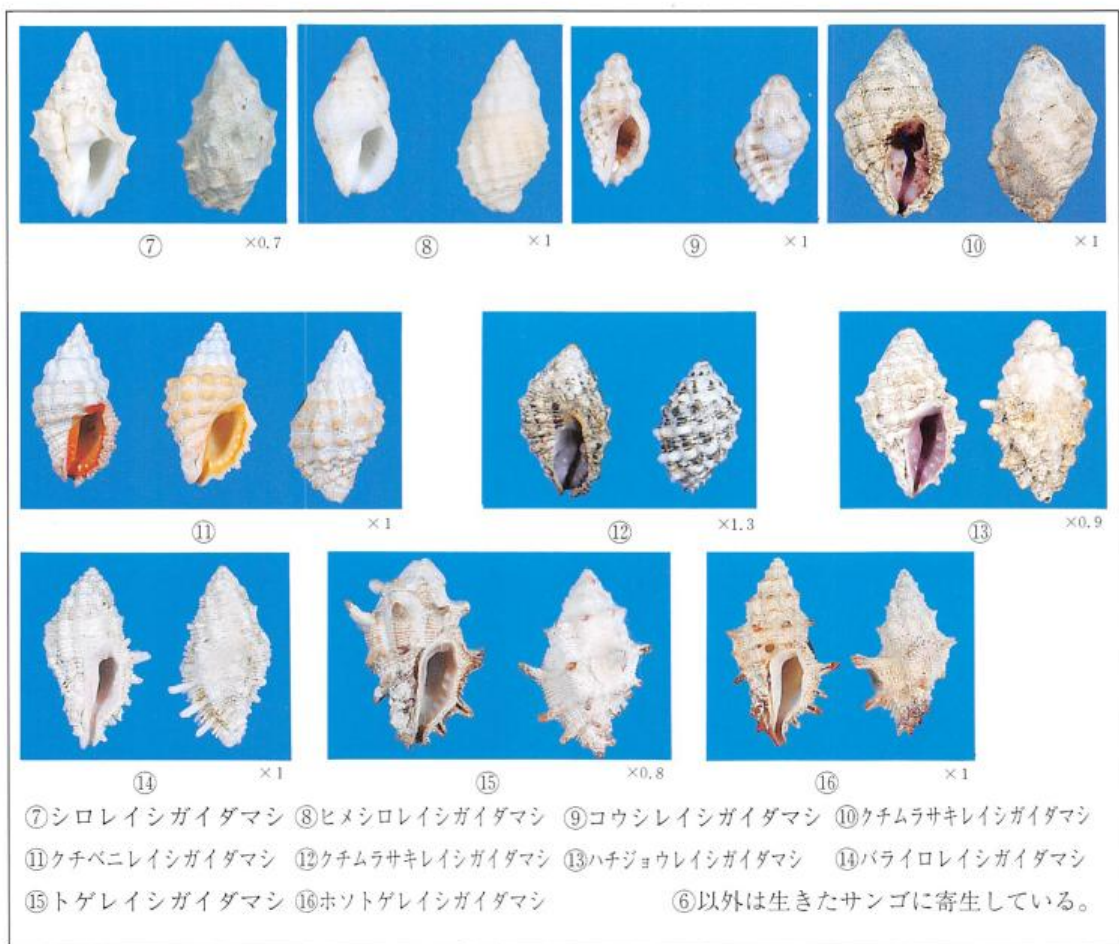


⑤ ×0.9



⑥ ×0.6

- ①レイシガイダマシ
 - ②レイシガイダマシモドキ
 - ③コゲレイシガイダマシ
 - ④コイワニシガイ
 - ⑤ウネレイシガイダマシ
 - ⑥コマドボラ
- ただし、③④は少ない



259 クチムラサキサンゴヤドリガイ (カブラガイ科) (紀伊半島以南)



× $\frac{3}{2}$

場所 潮間帯，潮だまり（タイドプール）

解説 殻表は石灰で覆われている。殻口は紫色で，外唇の内側には糸のようなひだがある。

似た貝 カブラガイ科の貝は，すべて生きたサンゴに寄生している。トヨツガイは，螺肋がちぢみ状になっている。数は少ない。



トヨツガイ（房総半島以南）

×1



× $\frac{4}{3}$

ヒトハサンゴヤドリガイ (紀伊半島以南)



×1

カブトサンゴヤドリガイ (紀伊半島以南)



× $\frac{1}{6}$

スジサンゴヤドリガイ (紀伊半島以南)



×1

カゴメサンゴヤドリガイ (紀伊半島以南)

ヒトハサンゴヤドリガイの軸唇には歯がある。
 カブトサンゴヤドリガイの体層周縁は張り出し
 殻口は大きく見える。
 カゴメサンゴヤドリガイの殻口は白色で殻表は
 かご目状である。スジサン
 ゴヤドリガイ、ヒラセト
 ヨツガイの殻
 表はりん片状
 である。



ヒラセトヨツガイ (紀伊半島以南) ×1

260 ノシガイ (エゾバイ科) (紀伊半島以南)



×2

場所 潮間帯, 岩礁にと
 も多い。

解説 殻表には, 黄白色と
 黒色の色帯がある。殻口は紫
 紅色で, 外唇は厚くなり, 内
 側には歯がある。



ノシメニナ (紀伊半島以南) × $\frac{3}{2}$ ホソノシガイ (奄美大島以南) ×2

似た貝 ノシメニナ・ホ
 ソノシガイは, 潮だまりの
 石の下にいる。殻口や殻表
 の色にもそれぞれ特徴があ
 る。ともに数は少ない。



シマベッコウバイ (紀伊半島以南) ×1



スジグロホラダシ (四国以南) ×1

261 アツムシロガイ (オリレヨフバイ科) (紀伊半島以南)



×2

場所 潮間帯, 潮だまり
 (タイドプール)

解説 体層周縁に黒点の
 列がある。殻口の外唇は厚
 い。早朝の干潮には, よく
 はい出している。

似た貝 写真参照



アツムシロガイ (四国以南) × $\frac{5}{3}$



布目状

滑唇が広がる
コブシロガイ (奄美大島以南) (少ない) ×2



×2

カゴメシロガイ (奄美大島以南) (少ない)



ヒメヨフバイ (紀伊半島以南) ×1



ミスジヨフバイ (九州南部以南) × $\frac{4}{3}$



ヨフバイモドキ (紀伊半島以南) ×1



シノミヨフバイ (房総半島以南) × $\frac{4}{3}$



ハイロムシロガイ (奄美大島以南) × $\frac{4}{3}$



イボヨフバイ (奄美大島以南) × $\frac{2}{3}$

262 コオニコブシガイ (オニコブシガイ科) (紀伊半島以南)



×1

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 肩部には太い突起があり, 螺塔は低い。殻口は白色, 軸唇には4本の歯 (歯状突起) がある。

似た貝 オニコブシの軸唇には, 3本の歯があり, 螺塔は高い。数は少ない。



オニコブシガイ (奄美大島以南) × $\frac{1}{2}$

263 ニシキノキバフデガイ (フデガイ科) (紀伊半島以南)



×1

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻表には赤い色斑があり, 縫合の下にいぼ状の突起がある。砂の中にもぐっているのをとってみると, 長い口 (吻という) を出している。

似た貝



キバフデガイ (四国以南) ×1

264 コシマヤタテガイ (フデガイ科) (紀伊半島以南)



×2

場所 潮間帯, 岩礁
解説 殻は螺塔が低く, 黄色のしま (縞) は太くて, まばらである。

似た貝 オオシマヤタテガイでは, 縞の間隔が狭く, 数が多い。



× $\frac{4}{3}$

ミダレシマヤタテガイ (紀伊半島以南)



× $\frac{4}{3}$

オオシマヤタテガイ (紀伊半島以南)



× $\frac{4}{3}$

フトコロヤタテガイ (奄美大島以南)

265 マダライモガイ (イモガイ科) (紀伊半島以南)



×2

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 体層には黒い大きな斑紋列が3列ある。肩部には低い結節 (こぶ) がある。

似た貝 コマダライモガイの殻表はつぶ状で、触るとでこぼこしている。



コマダライモガイ × 3/2 (紀伊半島以南)

イモガイ科の日本産は約120種あり、形は逆円錐形で、殻口はほとんどが狭く、広いものは少ない。ふたは、長楕円形で非常に小さい。

すべてのイモガイは毒腺を持ち、肉食性である。餌になる動物に毒を注入し、麻痺させてから飲み込む。殻口の広いものは毒性が強く、小魚や貝を食べ、狭いものは毒性も弱く、ゴカイ類を食べる。

殻口の広いものには、アンボイナガイ、ムラサキアンボイナガイ、シロアンボイナガイ、ツボイモガイ、ベッコウイモガイ、タガヤサンミナシガイ等があるが、このうち、タガヤサンミナシガイは水槽で飼育して調べた結果、小型の貝(ウネレイシガイダマシ、レイシガイ、クリフレイシガイ、シマレイシガイダマシ、ヒメヨウラクガイ、イボニシガイ、スガイ、ヒメクボガイ、イシダタミガイ、シマベッコウバイ)を食べる。

アンボイナガイの毒性は最も強く、ヒトがこの貝に刺されて死亡した事例が、奄美大島、与論島、沖縄から数例報告されている。採集する時は、十分注意する必要がある。

266 キヌカツギイモガイ (イモガイ科)



×3/4

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 殻は厚い殻皮で覆われているため、模様ははっきりしない。この殻皮は、薄い水酸化ナトリウム水溶液に2~3日浸けておくとぼろぼろに溶ける。あとは、水洗いす

れば、地肌が出てくる。そこで、肩部を見ると、いぼ列がないのでイボシマイモガイと区別できる。

似た貝 右写真参照



×1

イボシマイモガイ (房総半島以南)



×1

ハイイロミナシガイ (四国以南)

267 サヤガタイモガイ (イモガイ科) (房総半島以南)



×3/3

場所 潮間帯, 潮だまり (タイドプール)

解説 肩部にいぼ列がある。体層は黄褐色で、^{さやがたもよう}沙綾形模様 (卍の形をくずして連ねた模様) がある。

似た貝

ジュズカケサヤガタイモガイは多数の螺糸があり、ス

ソムラサキイモガイは螺塔が高く、丸みがあり、殻表に白斑がある。



×4/3

ジュズカケサヤガタイモガイ (紀伊半島以南)

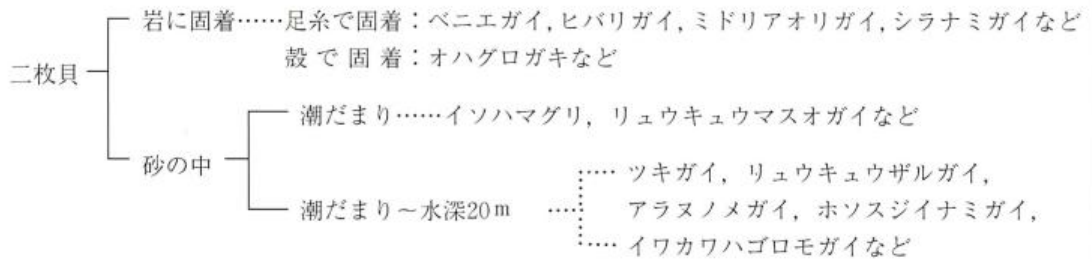


スソムラサキイモガイ ×1 (奄美大島以南)



アンボイナガイ ×1/2 (紀伊半島以南)

二枚貝類：体を二枚の殻で左右から包んでおり、頭はなく、足はくさび形である。生息する場所によって次のように分けることができる。



268 ベニエガイ (フネガイ科) (紀伊半島以南)



場所 潮間帯，潮だまり（タイドプール）の転石の下や岩のくぼみに足糸（岩に固着するための糸の束）で固着している。

解説 殻表は紫紅色で、あらい布目状となり、褐色の毛状の殻皮で被われている。殻の内面は紫褐色である。

似た貝 エガイでは殻の表面も内面も白色で、放射肋は顆粒状（粒の状態）となる。

カリガネエガイは後方で殻皮が重なり合って皮状となる。数はともに多く、普通に見られる。



エガイ (本州以南) × $\frac{4}{5}$



カリガネエガイ (本州以南) × $\frac{4}{3}$

269 リュウキュウヒバリガイ (イガイ科) (種子島以南)



場所 潮間帯の岩礁に足糸で固着し、群生している。

解説 殻表には成長脈があり、殻頂の内側に板状のもの（隔板）がなく、毛のような殻皮で被われる。肉は煮ると赤っぽくなる。

似た貝 ヒバリガイモドキの殻表には放射状の肋があり、隔板はない。クジャクガイとシロインコガイはともに、放射肋と隔板を持っているが、殻の色や放射肋で区別できる。数はともに × $\frac{2}{3}$ に少ない。



ヒバリガイモドキ (房総半島以南) ×1



クジャクガイ (房総半島以南) × $\frac{1}{2}$



シロインコガイ (伊豆半島以南) ×1

270 モスソアコヤガイ (ウグイスガイ科) (奄美大島以南)



×1

場所 潮間帯の潮だまり (タイドプール) の岩に足糸で固着している。

解説 右殻は平らでふくらみはないが、左殻には成長線にそってうろこ状の突起がある。潮干狩りでよく採る貝で肉はおいしい。

似た貝 アコヤガイは、真珠養殖の母貝として用いられており、シンジュガイとも呼ばれている。



× $\frac{3}{2}$

アコヤガイ (男鹿半島から九州)

271 シラナミガイ (シャコガイ科) (種子島以南)



× $\frac{1}{2}$

場所 潮間帯の潮だまり (タイドプール) のサンゴ礁に足糸で固着している。

解説 放射肋は7~8本で、肋上にひれ状突起がある。



× $\frac{1}{2}$

ヒメジャコガイ (種子島以南)

似た貝 ヒメジャコガイは肋上のひれ状突起はない。腹縁の内側は黄色または薄紅色となり、足糸の出る口はシラナミガイよりも大きい。シャコガイ科には、ヒレジャコガイやシャゴウガイがあり、ヒレジャコガイは肋上のひれ状突起が特に大きく、肋と肋の間に多数の細かい肋がある。シャゴウガイは、ひし形をしており、足糸の出る口はない。いずれも肉はおいしい。

272 オハグロガキ (イタボガキ科) (紀伊半島以南)



× $\frac{4}{5}$



(左殻の内面)



ケガキ (全国的に分布) × $\frac{4}{5}$

場所 潮間帯上部の岩に左殻で固着している。

解説 右殻の表面には放射肋が多数ある。両殻が合わさってぎざぎざになった部分の内側は黒紫色となる。

似た貝 ケガキは全国的に分布し、普通に見られ、殻表にはパイプ状突起がある。

273 ツキガイ (ツキガイ科) (紀伊半島以南)



×1/2

場所 潮間帯から水深20mまでの砂地にもぐっている。

解説 殻表は白色で、布目状になっている。内面は淡黄色で縁(周縁)は赤い。

似た貝 ウラキツキガイは大きさが3cmぐらいで、殻表の布目状彫刻はツキガイに比べて弱い。内面は黄色で、縁が赤くなるものとならないものがある。クチベニツキガイは殻表の放射肋が幅広く、布目状とはならない。ともに数は少ない。



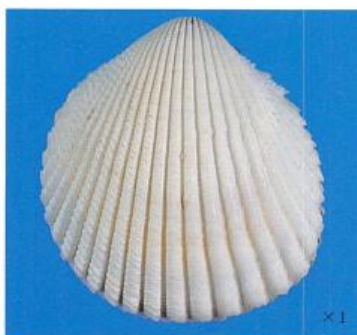
ウラキツキガイ (四国以南) ×1/2



×1/2

クチベニツキガイ (四国以南)

274 リュウキュウザルガイ (ザルガイ科) (奄美大島以南)



×1

場所 潮間帯から水深20mまでの砂地にもぐっている。

解説 放射肋は27本前後、肋上には木ねじのねじ山のような刻み目が密にあり、後方ではとげ状となる。

似た貝 カワラガイは、放射肋が30本前後で、肋上には赤紫色のうろこ状の突起がある。リュウキュウヒ



×1

カワラガイ (四国以南)

シガイの放射肋は、23本前後である。クサビヒシガイは淡黄色で大きさが1cmぐらいで、放射肋は28本前後である。オオヒシガイでは、24本前後の放射肋上にうろこ状の突起が密にある。ハートガイでは、他のものに比べて稜角(殻頂から伸びる角)が最も鋭い。放射肋は低く平らで目立たない。

カワラガイ、クサビヒシガイは比較的が多いが、リュウキュウヒシガイ、オオヒシガイ、ハートガイは少ない。



リュウキュウヒシガイ (奄美大島以南) ×3/3



クサビヒシガイ (奄美大島以南) ×2



×1

オオヒシガイ (奄美大島以南)



ハートガイ (奄美大島以南) ×3/4

275 アラヌノメガイ (マルスダレガイ科) (紀伊半島以南)



×1

場所 潮間帯から水深20mまでの砂地にもぐっている。

解説 殻表の輪状肋は強く、放射肋と交わってあらい布目状となる。内面の歯は肉色に染まる。肉はおいしい。

似た貝 マルスダレガイは、アラヌノメガイよりも丸くふくれ、輪状肋が細かくきざまれ、つぶ状となる。数は少ない。



× $\frac{1}{3}$

マルスダレガイ (房総半島以南)

276 ホソスジイナミガイ (マルスダレガイ科) (紀伊半島以南)



場所 潮間帯から水深20mまでの砂地にもぐっている。

解説 殻表には太い放射肋があり、途中から枝分かれし、後方では太く、肋間も広い。薄い黄白色の地に紫褐色のまだら模様がある。

似た貝 アラスジケマンガイはホソスジケマンガイに比べて前後に長く、ふくらみも強い。後方にいくほど肋間は広くなり、肋上のつぶも大きい。



× $\frac{3}{4}$

アラスジケマンガイ (奄美大島以南)

277 イソハマグリ (チドリマスオガイ科) (房総半島以南)



×1

場所 潮間帯の砂地にもぐっている。

解説 殻は白色で、殻表には強い輪状肋がある。

似た貝 ナミノコマスオガイの殻表は平らでなめらかであり、殻頂は

後方に寄っている。数は少ない。



ナミノコマスオガイ (奄美大島以南) ×1

278 リュウキュウマスオガイ (リュウキュウマスオガイ科) (紀伊半島以南)



× $\frac{1}{5}$

場所 潮間帯の砂地にもぐっている。

解説 殻表には放射肋があり、後方では強くなっている。内面は白いが、後方では紫色となる。

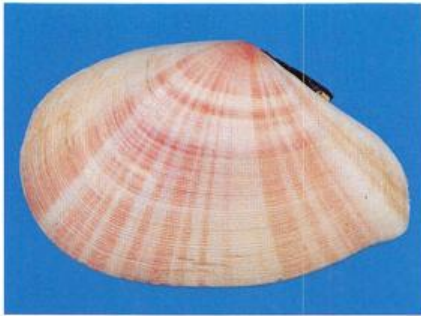
似た貝 マスオガイは、殻が薄く、放射肋もはっきりしない。



×1

マスオガイ (四国以南)

279 ニッコウガイ (ニッコウガイ科) (奄美大島以南)



×1

場所 潮間帯から水深20mまでの砂地にもぐっている。

解説 殻表には輪脈が密にあり、殻頂から出る紅色の放射彩は朝夕の日光を思わせる鮮

やかな色彩となっているところから「日光貝」という名がついた。

似た貝 ヒメニッコウガイは、殻表の輪脈が弱く、光沢がある。白色または淡黄色の地に放射彩があるものがないものがある。リュウキュウサラガイでは、殻表の光沢が強く、淡紅色の放射彩がある。殻頂が赤く染まり美しい貝のひとつである。リュウキュウサラガイは少ないが、ヒメニッコウガイは、比較的が多い。



× $\frac{1}{3}$

ヒメニッコウガイ (紀伊半島以南)



×1

リュウキュウサラガイ (奄美大島以南)

280 イワカワハゴロモガイ (ハボウキガイ科) (紀伊半島以南)

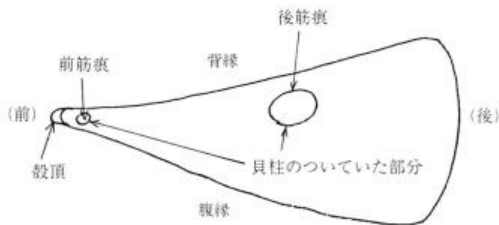


× $\frac{1}{3}$

場所 潮間帯から水深20mまでの砂地に殻頂を下にしてもぐっている。知らずに足で踏みつぶすことがある。

解説 殻は薄く、前端がとがり、二等辺三角形のようである。放射肋の上にはうろこ状の突起の列がある。

似た貝 カゲロウガイは、紫を帯びた黄褐色で、形は一定しない。背縁はほぼまっすぐで、後端は開いている。肋上にうろこ状の突起はない。



イワカワハゴロモガイの右殻の内面



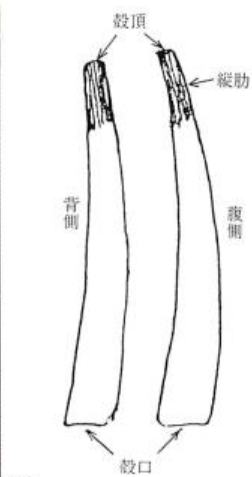
× $\frac{1}{5}$

カゲロウガイ (房総半島以南)

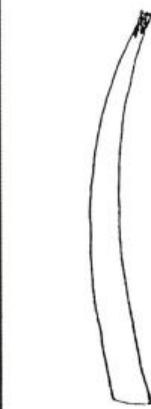
ツノガイ類 (掘足綱)

殻は石灰質で、管状をしていて背側へ曲がり、殻頂から次第に太くなり殻口付近で最大となる。殻の色は白色が多いが、黄色、緑色、紅色のこともある。縦肋があるものもあり、殻口は、円形、だ円形、または殻表の肋に応じて多角形となる。殻頂付近に裂け目や切れ込みのあるものもある。潮間帯から水深3000mのところに生息し、生きた貝を採ることは容易ではないが、打ち上げ貝を浜で見つけることができる。

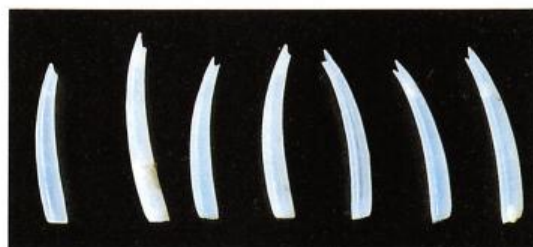
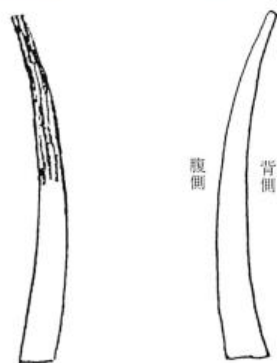
281 リュウキュウツノガイ (ツノガイ科) (奄美大島以南)



似た貝



ミガキマルツノガイ (房総半島以南)



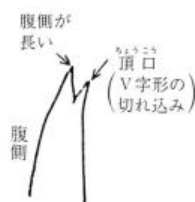
フタマツツノガイ (ハラブツツノガイ科) (紀伊半島以南) ×2

ヒメナガツノガイ (房総半島以南) サケツノガイ (ミガキツノガイ科) (鹿島以南)

場所 潮間帯下, 水深5~100mの砂底にすんでいる。生きた貝を採集することはむずかしい。

解説 殻は白色で、殻頂から出る縦肋は6~10mm (殻長の1/7ぐらい) である。

似た貝 ミガキマルツノガイでは、縦肋が殻頂近くにわずかにあるだけで、ほとんど平滑である。ヒメナガツノガイでは、縦肋が殻表の半分近くまで伸びる。サケツノガイは、腹面を上にしたとき、殻口から出るひび割れ状の切れ込み (4~9mm) が特徴である。フタマツツノガイは、頂口にV字形の切れ込みがある。殻口が少し細かなのはハラブツツノガイ科の特徴である。



フタマツツノガイ

ヒザラガイ類（多板綱，八枚貝）

ヒザラガイ類の日本産は約90種，県内に約20種である。背中には8枚の小さな殻を持っているので「八枚貝」とも呼ばれている。運動は極めて不活発であり，触っても逃げようとしない。吸盤状の足で岩に吸着しているのので，いそ金かドライバーで一気にはがさないと簡単に採ることはできない。

282 ヒザラガイ（ヒザラガイ科）（北海道南部以南）



×1



×1



×1

オニヒザラガイ（奄美大島以南）（少ない）

ニシキヒザラガイ（全国的に分布）

場所 潮間帯の岩のくぼみや割れ目などにいる。

解説 全国どこでも見られる。方言では「クズマ」「クジマ」などと呼ばれ，食用となる。肉体（8枚の殻のまわり）には，とげが密生している。

似た貝 オニヒザラガイは，ヒザラガイに比べて肉体上のとげが太い。ニシキヒザラガイは，肉体上にとげがない。ウスヒザラガイは，潮だまり（タイドプール）の石を起こすと多数見られ，逃げ足が早い。肉体の幅が狭く，とげもなく，ルーペで見るとうろこ（鱗）を敷き詰めたようである。



ウスヒザラガイ（全国的に分布）（多い） ×1

淡水産巻貝類

奄美大島産としては，池や川，水田，溝などに生息しているタニシ類，アマオブネガイ類，カワニナ類，モノアラガイ類などを合わせても約20種（日本産は約100種）にすぎない。食用として親しまれてきたマルタニシも池や水田の環境の変化に応じて著しく減少している。

283 タイワンモノアラガイ（モノアラガイ科）（奄美大島～台湾に分布）



× $\frac{3}{4}$

場所 池や水田で見られる。

解説 螺塔が高く，成貝になっても殻は薄い。

似た貝 モノアラガイ（奄美大島諸島には生息しない）は，螺塔が低く，体層がふくれ，殻口は大きく開いていて，台湾モノアラガイと同じように軸唇のねじれは大きい。ヒメモノアラガイは，大きさが1 cmぐらいで，軸唇のねじれはな

く，池や溝に生息している。



モノアラガイ（北海道～九州） ×1



ヒメモノアラガイ（北海道～沖縄） × $\frac{3}{4}$

陸産貝類

雨が降ったとき、垣根や木の幹、落ち葉の上をはい回ったり、野菜の葉についているカタツムリなどをよく見かける。アフリカマイマイのように大形のものからルーペでないと識別できないスナガイやケシガイのような微小貝を含め、奄美大島諸島には、陸産貝が約140種生息している。きせるの形をしているキセルガイの仲間、蓋を持っているヤマタニシの仲間、カタツムリの仲間、殻が退化しているナメクジの仲間など多様である。また、オオシマキセルガイ、トクノシマキセルガイ、オキノエラブキセルガイ、エラブマイマイ、オキノエラブヤマタカマイマイなどのようにその島の固有種（その島にしか生息していない種類）もいる。

284 パンダナマイマイ（オナジマイマイ科）（奄美大島以南）



× $\frac{1}{3}$

× $\frac{1}{3}$

場所 人家や畑のまわりに多い。

解説 殻は螺塔が低く、体層周縁に弱い角があり、その上に1本の色帯がある。

似た貝 タメトモマイマイは、パンダナマイマイに比べて螺塔がやや高く、螺層がふくらみ、成長脈もあらく、体層周縁に角はできない。オオシママイマイは、エラブシュリマイマイに比べて成長脈があらく、螺塔も高い。種類によって螺塔の違い、体層の大きさ、色帯、表面の成長脈などの微妙な違いがある。



×2

× $\frac{1}{3}$

タメトモマイマイ（奄美大島以南）（多い）



×1

× $\frac{1}{5}$

エラブシュリマイマイ（沖永良部島の固有種）（少ない）



×1

×1

オオシママイマイ（奄美大島・徳之島）（少ない）

相違点を見つけよう



$\times \frac{1}{3}$

$\times 1$

オキナワウスカワマイマイ (オナジマイマイ科) (奄美大島以南)

屋久島・口永良部には、これによく似たオオスミウスカワマイマイが生息している。また、県本土には、ウスカワマイマイが生息している。



$\times \frac{1}{3}$

$\times \frac{3}{2}$

クマドリヤマタカマイマイ (ナンバンマイマイ科) 加計呂麻島 (押角), 奄美大島 (手安)



$\times \frac{1}{3}$

$\times \frac{5}{4}$

トクノシヤマタカマイマイ (ナンバンマイマイ科) 徳之島固有種



$\times \frac{5}{3}$

$\times 1$

オキノエラブヤマタカマイマイ (ナンバンマイマイ科) 沖永良部固有種



$\times 1$

$\times 1$

エラブマイマイ (オナジマイマイ科) 沖永良部固有種

カタツムリは、乾燥してくると、殻口に薄い膜を張ってじっとしており、雨が降ると膜を破ってはい出す。ヤマタニシ類（前鰓類）を除く陸産貝類は、有肺類と呼ばれ、体の表面から酸素をとるしくみになっている。

285 キカイキセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) (奄美大島全島)



場所 樹上性で木の幹や木の葉、ときには石垣などについている。

解説 殻は紡錘形

× $\frac{3}{2}$ で表面に成長脈がある。



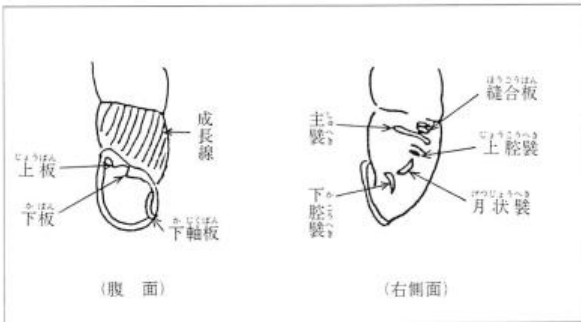
× $\frac{3}{2}$

オオシマキセルガイモドキ (奄美大島、徳之島、喜界島)

る。殻口の縁は白色で、そりかえっている。殻頂を上にしたとき、殻口が軸唇の右にあるので「右巻き」である。(キセルガイ類のほとんどは「左巻き」になっている。)

似た貝 オオシマキセルガイモドキは、殻がやや細長く、殻表に淡黄褐色のとらふ模様がある。

相違点を見つけよう——キセルガイ類



× $\frac{4}{3}$

ヒルグチキセル (奄美大島、徳之島)



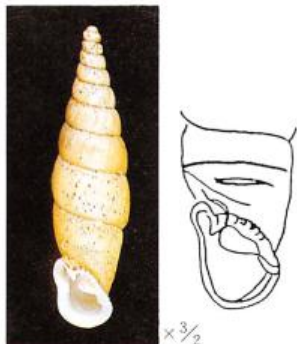
× $\frac{5}{2}$

チャイロノミギセル (奄美大島、沖永良部、与論島)



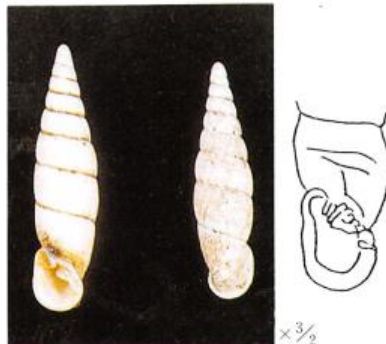
× $\frac{5}{2}$

トカラコギセル (奄美大島、沖永良部)



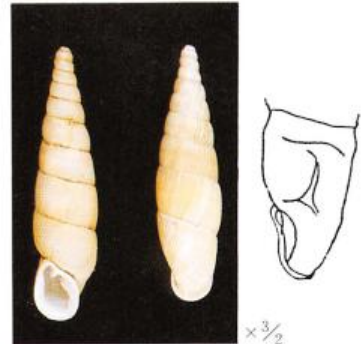
× $\frac{3}{2}$

オオシマキセル (奄美大島固有種)



× $\frac{3}{2}$

クサレギセル (徳之島固有種)



× $\frac{3}{2}$

オキノエラブキセル (沖永良部固有種)

索 引

ゴシック体は路傍300種として選んだ50種類の貝，他は似た貝としてとりあげた貝

ア		
アカイガレイシガイ	114	
アコヤガイ	120	
アツムシロガイ	116	
アナアキウズガイ	105	
アマオブネガイ	106	
アラスジケマンガイ	122	
アラヌノメガイ	122	
アワムシロガイ	116	
アンボイナガイ	118	
イ		
イシダミアマオブネガイ	107	
イシダタミガイ	105	
イソハマグリ	122	
イボアナゴ	104	
イボシマイモガイ	118	
イボヨフバイ	117	
イワカウネボラ	113	
イワカウハゴロモガイ	123	
ウ		
ウズイチモンジガイ	106	
ウスヒザラガイ	125	
ウズラタマキビガイ	107	
ウネレイシガイダマシ	114	
ウノアシガイ	104	
ウラウズガイ	106	
ウラキツキガイ	121	
ウラスジマイノソデ	109	
エ		
エガイ	119	
エダカラガイ	111	
エラブシュリマイマイ	126	
エラブマイマイ	127	
オ		
オオウラウズガイ	106	
オオシマギセル	128	
オオシマキセルガイモドキ	128	
オオシママイマイ	126	
オオシマヤタテガイ	117	
オオヒシガイ	121	
オオヘビガイ	107	
オオマルアマオブネガイ	106	
オキナワイシダタミガイ	105	
オキナウウスカワマイマイ	127	
オキニシ	113	
オキノエラブギセル	128	
オキノエラブヤマタカマイマイ	127	
オニコブシガイ	117	
オニノツノガイ	108	
オニヒザラガイ	125	
オハグロガイ	108	
オハグロガキ	120	
カ		
カゲロウガイ	123	
カゴメサンゴヤドリガイ	116	
カゴメムシロガイ	117	
カバフダカラガイ	111	
カブトサンゴヤドリガイ	116	
カリガネエガイ	119	
カワラガイ	121	
キ		
キアマガイ	107	
キイロイガレイシガイ	114	
キイロダカラガイ	111	
キカイキセルガイモドキ	128	
キノハナガイ	104	
キナレイシガイ	113	
キバアマガイ	107	
キバフデガイ	117	
キマダライガレイシガイ	114	
キヌカツギイモガイ	118	
ク		
クサビヒシガイ	121	
クサレギセル	128	
クジャクガイ	119	
クチベニツキガイ	121	
クチベニレイシガイダマシ	115	
クチムラサキサンゴヤドリガイ	115	
クチムラサキレイシガイダマシ	115	
クマドリヤマタカマイマイ	127	
クモガイ	109	
クロカラマツガイ	104	
クワノミカニモリガイ	108	
ケ		
ケガキ	120	
コ		
コイボテツレイシガイ	113	
コイワニシガイ	114	
コウシレイシガイダマシ	115	
コウダカカラマツガイ	104	
コウダカタマキビガイ	107	
ニオニコブシガイ	117	
コオニノツノガイ	108	
コゲレイシガイダマシ	114	
コシダカアマガイ	107	
コシダカサザエ	105	
コシマヤタテガイ	117	
コビトアワビ	104	
コブムシロガイ	117	
コマダライモガイ	118	
コマドボラ	114	
コモンドカラガイ	111	
サ		
サケツノガイ	124	
サソリガイ	110	
サツマボラ	112	
サメダカラガイ	111	
サヤガタイモガイ	118	
シ		
シイノミヨフバイ	117	
シオボラ	112	
シノマキガイ	112	
シボリダカラガイ	111	
シマイボボラ	112	
シマベッコウバイ	116	
ジュズカケサヤガタイモ	118	
ジュセイラ	112	
ショウジョウラ	112	
シラナミガイ	120	
シロイガレイシガイ	114	
シロインコガイ	119	
シロクチキナレイシガイ	113	
シロレイシガイダマシ	115	
ス		
スイジガイ	109	
スジグロホラダマシ	116	
スジサンゴヤドリガイ	116	
スツムラサキイモガイ	118	
タ		
タイワンモノアラガイ	125	
タメトモマイマイ	126	
チ		
チャイロノミギセル	128	
チョウセンサザエ	105	

ツ	
ツキガイ	121
ツタノハガイ	104
ツノテツレイシガイ	113
ツノレイシガイ	113
テ	
テツボラ	113
テツレイシガイ	113
テリタマキビガイ	107
ト	
トウガタカニモリガイ	108
トカラコギセル	128
トクノシマヤマトカマイマイ	127
トゲレイシガイダマシ	115
トコブシ	104
トヨツガイ	115
ナ	
ナミノコマスオガイ	122
ニ	
ニシキアマオブネガイ	106
ニシキウズガイ	105
ニシキノキバフデガイ	117
ニシキヒザラガイ	125
ニッコウガイ	123
ネ	
ネジマキガイ	108
ノ	
ノシガイ	116
ノシメニナ	116
ハ	
ハイイロムシロガイ	117
ハイイロミナシガイ	118
ハチジョウダカラガイ	110
ハチジョウレイシガイダマシ	115
ハツユキダカラガイ	111
ハートガイ	121
ハナダタミガイ	105
ハナビラダカラガイ	111
ハナマルユキダカラガイ	110
バライロレイシガイダマシ	115

バンダナマイマイ	126
ヒ	
ヒザラガイ	125
ヒダトリガイ	108
ヒトハサンゴヤドリガイ	116
ヒバリガイモドキ	119
ヒメジャコガイ	120
ヒメシロレイシガイダマシ	115
ヒメナガツノガイ	124
ヒメニッコウガイ	123
ヒメホシダカラガイ	110
ヒメモノアラガイ	125
ヒメヤクシマダカラガイ	110
ヒメヨフバイ	117
ヒラアナゴ	104
ヒラカラマツガイ	104
ヒラセトヨツガイ	116
ヒルグチギセル	128
ヒロクチダカラガイ	111
フ	
フクトコブシ	104
フシデサソリガイ	110
フタマツツノガイ	124
フタモチヘビガイ	107
フトコロヤタテガイ	117
フトスジアマガイ	107
ヘ	
ベニエガイ	119
ベニソデガイ	109
ホ	
ホシキヌタガイ	110
ホシダカラガイ	110
ホソスジウズラタマキビガイ	107
ホソスジイナミガイ	122
ホソスジテツボラ	113
ホソトゲレイシガイダマシ	114
ホソノシガイ	116
ホソヤクシマダカラガイ	111
マ	
マイノソデガイ	109

マガキガイ	108
マキミゾアマオブネガイ	106
マスオガイ	122
マダライモガイ	118
マルアマオブネガイ	106
マルスダレガイ	122
ミ	
ミガキマルツノガイ	124
ミツカドボラ	112
ミダレシマヤタテガイ	117
ミスジヨフバイ	117
ム	
ムカシタモトガイ	108
ムラサキイガレイシガイ	114
ムラサキウズガイ	105
メ	
メオニノツノガイ	108
モ	
モスソアコヤガイ	120
モノアラガイ	125
ヤ	
ヤクシマダカラガイ	111
ヤサガタムカシタモトガイ	108
ヨ	
ヨフバイモドキ	117
リ	
リュウキュウウノアシガイ	104
リュウキュウサラガイ	123
リュウキュウザルガイ	121
リュウキュウツノガイ	124
リュウキュウヒシガイ	121
リュウキュウヒバリガイ	119
リュウキュウヘビガイ	107
リュウキュウマスオガイ	122
レ	
レイシガイダマシ	114
レイシガイダマシモドキ	114

